

会告

「飛鳥池遺跡の保存・活用についての要望書」について	22
「京奈和自動車道の平城宮跡地下通過計画の撤回を求める要望書」について	22
「京奈和自動車道の平城宮跡地下通過計画の撤回を求める要望書」について	23
「高速道路計画で危機を迎えた世界遺産平城宮跡を考える」シンポジウムの開催、及び主催団体・幹事団体としての参加について	23
京奈和自動車道の平城宮跡地下通過計画問題の現状と木簡学会としての取り組み、及び第二回「高速道路計画で危機を迎えた世界遺産平城宮跡を考える」シンポジウムの開催について	24
「大和北道路の平城宮跡直下トンネル案の即時撤回を求める要望書」について	25
	276
	251
	238
	236
	342
	340

編集後記

21	312	22	346	23	242
(清水みき)			(西山良平)		(西山良平)
24	258	25	298		
(寺崎保広)			(土橋 誠)		

編集後記

日がいよいよ短くなり、紅葉の見られる季節になると、いよいよ木簡研究の編集が最終段階を迎えることとなる。今年も木簡学会の当日に会誌を間に合わすべく、八月には印刷所へ渡し、十一月には最終校正を行ない、一二月の初めに第二五号が完成の運びとなった。本号では、二〇〇二年出土の木簡として一九二頁分も掲載した。

例年になく木簡の出土した年であったことを物語る。中でもここ数年の特徴として、古代にとどまらず、中世や近世の木簡が大量に出土し、紹介されるに至ったことがあげられる。本号でもかなりのものが紹介できたと思う。また、今年度になり、別途事業として『全国木簡出土遺跡・報告書綜覧』を奈良文化財研究所と共同で作成していることもあり、これまで本誌に載せられていなかったものをいくつか掲載することができた。

論考では、昨年度の研究会で発表された田良島氏の他、畑中氏、友田氏の木簡そのものに即した研究、高村氏の書評を頂戴でき、例年に劣らず充実した号となった。

編集・校正作業は年々困難を極めるようになってきているが、今年も幹事の方々や史料調査室の方々の努力によって、漸くここまでこぎつけることができた。会員諸氏には、なお一層のご理解とご支援を賜りたい。

(土橋 誠)